

令和元年度ひまわりパーク上牟田事業報告

【 事業概要 】

令和元年度は、昨年から継続した生活介護・就労継続支援事業 B 型・就労継続支援事業 A 型の 3 つの事業を軸に各関係機関や団体、他施設や地域と協働して各個々人のニーズに即した福祉サービスの提供に努めました。

4 月当初の利用者総数は、生活介護 5 名、就労継続支援事業 B 型 18 名、就労継続支援事業 A 型 14 名 合計 37 名でスタートしました。A 型以外は定数を満たしておらず、利用者確保が課題でした。

精神障害の方からの問い合わせが多くなり、見学の回数が増えていますが契約に至らないケースがほとんどであり、課題でもあります。また、近年の傾向として放課後等デイサービスの活用もすすんでおり、送迎ありきの福祉サービスを経験している方がほとんどで、送迎を求められる傾向にあります。

今後の事業運営の活性化を踏まえ、現在の送迎 3 コースの状況を整理したうえで迎え入れる体制作りの転換期と感じています。

柔軟な発想と多様な障がいのある方々に対応できる職員の資質を向上させる必要があります。各種研修会にも積極的に参加させ、サービスの質の向上に努めたいと思います。

1 利用者状況

令和 2 年 3 月 31 日現在

項 目	内 容		
平均年齢	50.0 歳 (25 歳～68 歳)		
職員数	11 名		
利用者居住区別	東区 3、博多区 10、中央区 3、南区 5、城南区 2 早良区 6 西区 4 市外 1 名 計 34 名		
事業別利用者数・定員	利用者 (定員)	男 性	女 性
就労継続支援事業 A 型	14 (14)	8	6
就労継続支援事業 B 型	18 (20)	11	7
生活介護	2 (6)	1	1
合 計	34 (40)	20	14

2 年間開所日数及び利用者数 (一日平均利用者数)

就労継続支援事業 A 型	360 日	3,499 人 (9.4 人)
就労継続支援事業 B 型	269 日	3,800 人 (13.8 人)
生活介護	269 日	518 人 (1.9 人)

3 事業別活動状況

(1) 就労継続支援事業A型

- ・動物園の仕事がなくなり、7名中、3名が事業部へ移行して、4名がA型に残り、今年度は14名の体制でスタートしました。
- ・仕事は昨年と同じ（博多港の区域清掃、博多区の公園清掃、天神中央公園清掃）に、筥松の市営住宅の清掃と西鉄管轄の天神海上公園清掃を新規に加えて実施しました。
- ・博多区の公園清掃業務が入札システムに代わりましたが、継続して仕事を受注できました。
- ・毎月2回、上牟田でモニタリングを含めた施設内作業を継続しました。
- ・年度末に保護者会を開催して現状を説明して、雇用時間を6時間から4時間へと転換しました。

(2) 就労移行支援事業B型

- ・業者からの委託を受けての作業が、ホテルのカードキーケース作り、結婚式用ナフキンの埃取り、箱詰め作業の3本柱だったものが、アクリルキャラクターの封緘作業の受注が継続的に入り、4本柱となりました。
その他、自主製品のポテトチップス作り、西部ガスや育成会便りの封入封緘作業・ポンポン作り、アルミ缶回収作業や樹脂版印刷（電柱札印刷）等にも取り組みました。新規作業でTシャツの封緘などもありました。
- ・当初から継続してきた電柱札の印刷に関しては、仕事内容が難しいこと、シンナーを用いること等を踏まえ、利用者へ提供できる作業が限られていることもあり、9月をもって辞めました。
- ・自主製品のポテトチップス作りも、依頼があったときのみの生産と移行しました。
- ・韓国との外交問題の影響で、職種によって仕事が減少しています。年度末にはコロナウィルスの感染拡大で、更に多方面に影響が表れています。
- ・施設外としてGHとむの清掃作業は継続しています。

就労継続B型事業平均工賃（月額）

平均工賃月額	作業内容
31年度 13,046円	カードキーケース等、ナフキンの埃取り、箱詰め作業、アクリルキャラクター作業。他、ポテチ作り、西部ガス、育成会便り、Tシャツの封入封緘作業など
30年度 13,422円	
29年度 9,312円	
28年度 6,978円	

(3) 生活介護事業

- ・生活介護事業では本人のストレングスを生かした折り紙やちぎり絵を利用したカレンダー作り等の活動や、運動不足解消として、博多フレンドホームでの「健美操」に参加したり、山王公園へ散歩に行ったり、館内で体操を実施したりしました。作品は空港作品展へ出展しました。

生活に安定感が出てきて活動も落ち着き、本人の自尊感情を高めながら、周りとのかかわりを含めた対応を行い、更なる生活の充実を目指していきたいと思えます。

- ・送迎を整備して各関係機関と連携を図り人員確保を目指します。施設内における環境整備はできうる限り行いました。

4 余暇支援

(1) 休日余暇活動

- ・休日の充実のため、毎月1回～4回の余暇支援を実施しました。さんさんプラザや博多フレンドからの講師派遣を受けて、運動不足解消と健康の維持のため軽運動やレクレーション、創作活動や調理を行いました。

その他、今後の生活に拡がりを持ち、充実した活動に繋がるよう、様々なイベントを利用しながら天神等への外出の取り組みをさらに進めました。昨年より参加者も増えてきました。

- ・利用者の意見を聞きながら、計画を進め、案内も視覚化するなどの工夫なども進めました。

(2) イベントや招待行事等

- ・博多フレンドとの協働として、今年も空港作品展に参加しました。しかし、展示期間にコロナウィルスが広がり、見学には行けませんでした。

作品作りは楽しく取り組むことができました。国際線での展示でしたので、外国の方からのメッセージも多くありました。

- ・招待行事に関しては地域性を生かした野球観戦に積極的に参加して社会参加の一つの手立てとしました。

5 健康管理と防火管理等

- (1) 医療機関（医療法人ながら医院）による健康診断を年2回（6月と11月）実施しました。また、胸部レントゲン検診、希望者への健康診断も実施しました。健診後、看護師と連携を図り、家庭につなげていきました。
 - ・月に1度看護師による健康診断を実施しています。血圧や脈拍、体重や腹囲等の測定は、結果をその都度グラフで分かりやすくして各家庭に報告しています。

- (2) 防災に関する意識を高めてもらうことを第一として法令に順守して、年に2回、防災訓練を実施しました。1回目は火災避難訓練で2回目は地震対応の避難訓練を行いました。地震対応時の避難方法や場所が異なる為、時間を設けて事前、事後に丁寧な説明を行いました。

A型事業においても外部清掃時の避難訓練を実施しました。

- (3) 館内点検については毎月の電気検診などの機会の際に、破損、危険個所の早期発見に努めました。外の物置場所の雨漏れと女性トイレシンク下の水漏れがあり、借入先業者と連携して修理工事を行いました。
- (4) ヒヤリ・ハットと事故報告書の共有を会議時に設け、共有化、及び再発防止に努めました。

6 その他の取り組み

(1) 日帰り旅行

- ・9月にバスハイクを実施しました。A型のメンバーも数名参加して鳥栖のキューピー工場見学をしました。ホテルでの食事や家族へのお土産の買い物等、皆さん充実した時間を過ごしました。

(2) 利用者代表会（本人活動）

- ・育成会本人部会のメンバーの多くが上牟田所属のため、可能な限りサポートを行いました。全国大会の熊本大会での本人部会発表者が上牟田所属の方となりました。本人部会のメンバーも応援に行くことになり、引率支援を行いました。部会の今後の拡がりを期待して「本人の声を聴く会」に余暇として利用者引率を行いました。

(3) 保護者会との連携

- ・4月の総会とブロック会議等で保護者と話す機会を設けています。8月に事業所で茶話会を今年も実施しました。MLAPの方々に来ていただき、音楽を通して保護者会と交流できました。
- ・施設の実情を実際に見ていただく機会の創出や第三者の立ち入りによる虐待防止も含めた観点でボランティアという形で、仕事の繁忙期に来ていただき、一緒に仕事をしながら状況を見ていただきました。

(4) 職員研修

①法人内、事業所内研修

- ・新任職員への研修、及びチューター制度の導入を試行しました。その他、法人内他事業所の研修への参加や権利擁護、虐待防止委員会の研修に積極的に参加しました。
- ・外部講師を招聘しての研修では、特別支援学校の先生にきていただきABA理論に基づく研修を実施しました。

- ・ 日常の利用者支援に関して様々な場面で研修（OJT）を重ねました。これまで取り組んできた支援を見直し、「言葉支援」から「視覚支援」の対応や利用者目線での声かけ等、利用者目線の支援が増えてきました。
- ・ 職員だけの自主研修。仲間づくりの研修も継続され、職場の人間関係の活性化に繋がっています。

②施設外研修

県や市、社会福祉協議会等主催の研修の他に、民間団体や博多区内の研修に参加し、職員の資質向上とネットワークづくりに取り組みました。

(5) 利用者送迎

- ・ 西・東・南の3コースで送迎を行っています。車輦が5台以内なので安全運転管理者の配置はしていませんが、安全運転研修に参加するなどしています。今後も時間にゆとりをもつことはもとより、運行には十分気を付けて実施していきます。

(6) 昼食提供業者の選定

- ・ 10月に法人全体で昼食提供業者についての選定を行い、契約変更となりました。

7 地域との交流

- ・ 上牟田3丁目の役員総会を施設で実施しました。町内への理解度も高まり、花見を初め、地域懇親バスツアー、防災訓練、校区行事への参加も定着しました。平成30年度に始まった地域交流としての共催でのイベントも継続しています。
- ・ 10月の地域一斉清掃には事業所のイベントとして全員参加で取り組みました。日常的な地域清掃も可能な限り実施してきました。
- ・ 地域懇談会は地域の要望で町内の県営住宅の方にも案内を出しました。

8 苦情受付状況

- ・ 本人、保護者、地域の方等からのご意見やご要望ご相談はその都度話を行う機会を設けて対応しています。情報の交換などが気軽にできる環境を整備して得た情報は共有化の徹底を図っています。
- 苦情はありませんでした。今後も引き続き丁寧な対応に心掛けていきます。

9 地域における公益的な取り組み

- ・ 「ふくおかライフレスキュー事業」に参画しています。サポーター配置は行っていません。また、依頼や実践もありませんでした。